

「京都を学ぶセミナー-南山城編」第4回（開催報告）

2019年8月28日
京都学・歴彩館
075-723-4835

2017年度から開始した「南山城の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【南山城編】」第4回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

- 日 時 2019年8月27日（火）13:30~15:00
- 会 場 京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 131名
- 内 容 講 演 京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授 久保 中央
「DNA からみた宇治茶の来歴」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

煎茶、玉露、抹茶……。普段、常飲するお茶について、我々はどのように接しているだろうか。甘み、香りなど味覚嗅覚で楽しむお茶が、いったいどこからやってきて、そしてどの様に日本に広まっていったのかを考えることは少ない。また、残された断片的な史料から、それを明らかにするには限界がある。本セミナーでは、DNA分析を使って、宇治茶がどのように広まっていったのかについて詳しく説明があった。一言で茶といえども、種子より増殖した在来種と挿し木により増殖された均一なクローンである品種が存在する。現在、広く飲まれている「やぶきた」は代表的品種である。府内在来種、府外在来種、そして国内の代表的品種のDNAを分析した結果、府内在来種と府外在来種が近い関係にあること、つまり京都から他地域へとお茶が伝播したことが明らかになった。また、府内の在来種と育成品種は、全国的代表的品種「やぶきた」とは遺伝的に異なることが明らかになり、京都の茶の特質が浮き彫りになった。DNA分析についても分かりやすく説明があり、参加者からは「DNA、遺伝子に疎いものにも分かりやすく有益なお話でした」といった感想が寄せられ、非常に有意義なセミナーとなった。

